

避難行動判定フローを確認しよう

自らの命は自ら守る意識を持ち、日頃から自宅の災害リスクととるべき行動を確認しておくことが大切です。以下の「避難行動判定フロー」をハザードマップと合わせて確認し、居住する地域の災害リスクや住宅の条件等を考慮したうえで、とるべき行動や適切な避難先を確認してください。

避難行動判定フロー

平時に
確認

あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップ*で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外

ご自身、または、一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

■ 浸水の危険があっても、次のような場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

- ▶ 洪水により家屋が倒壊、または、崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
- ▶ 浸水する深さよりも高いところにいる。
- ▶ 浸水しても水・食糧などの備えが十分にあり、水がひくまで我慢できる。

■ 土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり、安全確保をすることも可能です。

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親族や知人はいますか？

はい

警戒レベル3が出たら、安全な親族や知人宅に避難しましょう。(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル3が出たら、市が指定している避難場所に避難しましょう。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親族や知人はいますか？

はい

警戒レベル4が出たら、安全な親族や知人宅に避難しましょう。(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル4が出たら、市が指定している避難場所に避難しましょう。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。また、親族や知人などの家も含め、「避難場所以外へ避難(分散避難)」することが、感染症の感染リスクを下げるために有効です。

